

2025 年度(前学期)学生による授業評価アンケートについての総評

2025 年 8 月

浦安キャンパス FD・SD 委員会

2025 年度前学期に浦安キャンパスで行われた「学生による授業評価アンケート実施結果」(各学部学科および各センター)の集計結果について、以下のような総評を提示する。

□ アンケート実施の概要

(1) 実施期間等

* HT 学科(GMM)ST1 科目：2025 年 5 月 14 日(水)～5 月 27 日(火)

→アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 05 月 28 日(水)

* HT 学科を除く全学科：2025 年 6 月 25 日(水)～7 月 8 日(火)

→アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 7 月 9 日(水)

* 中間フィードバック：講義期間中の任意の時期(講義担当教員の裁量によって実施時期を決定した)

→(授業改善の PDCA サイクル促進のため、教員は授業期間中の任意の時期に授業評価以外の任意の方法で学生から授業に関する意見等のフィードバック(中間フィードバック)を受け、それを可能な範囲で当該学期中の授業改善に取り入れ、過去の事例を含め、改善された事項等を学生に伝えることとした。集計結果分析及び授業改善策の作成に際しては、その結果について記載するよう努めた。)

(2) 対象授業科目

* 各教員がアンケート実施時期に担当している全講義を対象とした

(ただし、ゼミ科目、履修者数 5 名以下の授業科目および再履修者のみが履修する授業科目を除いた。また、1 教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合、履修者最多の授業科目を対象とする。なお、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加した。)

(3)実施方法

＊講義受講生は、アンケート実施期間中に、PC やスマートフォンなどを利用して、アンケートの回答を行った。

＊アンケートは、全講義の共通設問に加え、設問内容を講義担当教員が自由に設定できる設問(B-1・B-2)を設定することができ、このアンケートを実施する場合は、教員はアンケート実施期間初日の前日までに、manaba のコースニュースによって受講生に質問内容を伝えた。

→HT 学科(GMM)ST1 科目：5 月 13 日(火)

→HT 学科を除く全学科：6 月 24 日(火)

(4)周知方法

アンケート実施についての概要は、実施期間 1 週間前までに Web ポータルシステム等で学生および教員に周知した。

→HT 学科(GMM)ST1 科目：5 月 7 日(水)

→HT 学科を除く全学科：6 月 18 日(水)

(5)その他

アンケートの内容、集計、公表、事務およびその他の事項は、「2025 年度学生による授業評価アンケート実施に関する取扱い」に従った。

(6)回答区分

アンケートの設問に対する回答は、5 段階評価(5. 満足、4. やや満足、3. どちらともいえない、2. やや不満、1. 不満)で行われた。

(7)アンケート集計結果等の活用方法

アンケート集計結果等は、次のような用途に活用される。

＊担当教員の授業改善努力の促進

＊担当教員への授業改善の提案

＊カリキュラム改善のための基礎資料

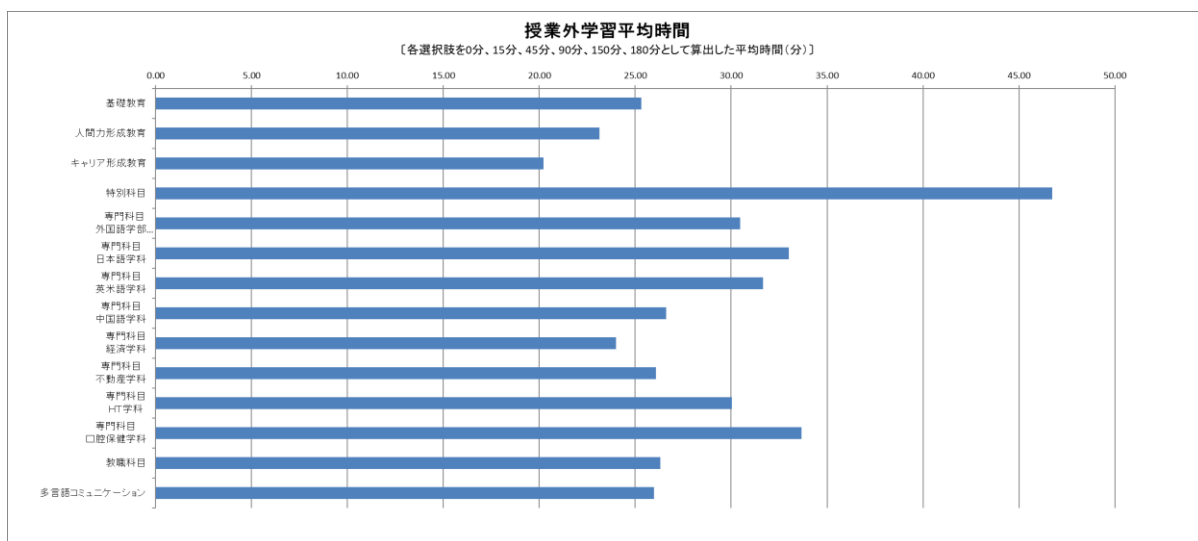
＊FD・SD 活動のための基礎資料質問項目

② アンケート結果の考察

表 1：科目区分別アンケート集計結果

2025年度前期授業評価アンケート集計結果(科目区分別)																	明海大学浦安キャンパスFD・SD委員会	
			全体	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 外国語科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学 科	教職科目	多言語コミュニケーション	
対象科目数			564	21	56	16	16	29	29	60	21	95	46	79	31	18	47	
履修者数			22,508	614	3,397	621	261	1,077	1,228	1,465	251	6,156	2,826	1,898	1,279	382	1,053	
回答者数			9,220	333	985	345	181	450	571	683	173	1,828	959	1,142	742	223	605	
部門	No.	部門文	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 外国語科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 IT学科	専門科目 口腔保健学 科	教職科目	多言語コミュニケーション		
A-2		平均時間(各選択項目を0分、15分、45分、90分、150分、180分として算出した平均時間(分))	25.32	23.14	20.22	46.74	30.47	33.00	31.65	26.42	24.00	26.08	30.03	33.66	26.30	25.97		
	1	板書(スクリーン)の文字・画像等・配布物は読みやすかったですか	4.49	4.36	4.47	4.80	4.43	4.69	4.44	4.58	4.44	4.23	4.53	4.26	4.63	4.52		
	2	教員の説明はわかりやすく、授業の進み具合は適切でしたか	4.51	4.37	4.46	4.80	4.38	4.68	4.44	4.53	4.44	4.22	4.53	4.26	4.60	4.52		
	3	授業の内容をよく理解できましたか	4.21	4.26	4.27	4.69	4.27	4.57	4.25	4.33	4.30	4.03	4.39	4.10	4.51	4.40		
	4	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.49	4.34	4.51	4.76	4.36	4.66	4.44	4.54	4.47	4.27	4.50	4.24	4.58	4.52		
	5	授業はライブの内容に沿って実施されていましたか	4.48	4.39	4.52	4.71	4.44	4.66	4.47	4.46	4.52	4.30	4.52	4.38	4.55	4.47		
	6	この授業で興味や関心が深まりましたか	4.18	4.30	4.27	4.67	4.23	4.58	4.27	4.39	4.33	4.14	4.44	4.13	4.58	4.38		
	7	この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.42	4.35	4.32	4.70	4.32	4.69	4.35	4.46	4.39	4.20	4.51	4.17	4.62	4.48		
B-1	8	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
B-2	9	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

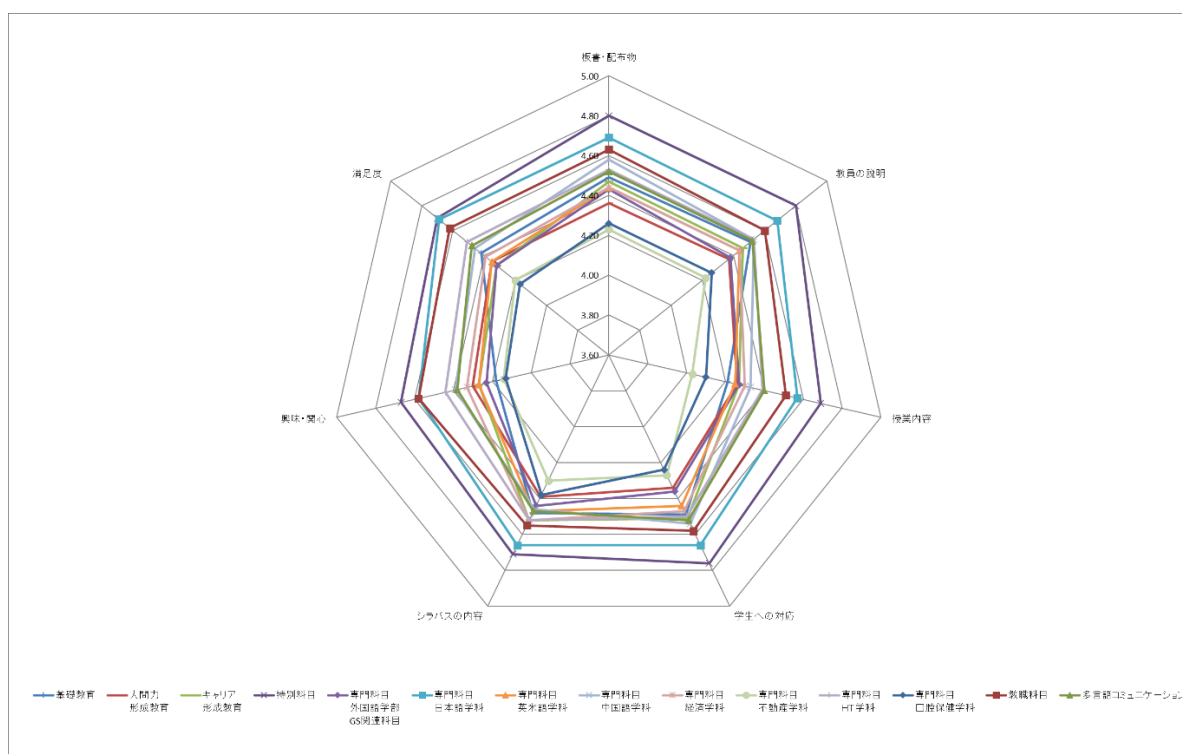
図 1：授業外学習平均時間



(1) 履修者数および回答者数について

表 1 は、浦安キャンパスで講義を提供する全部署における、科目区分別アンケート集計結果を示したものである。履修者数は延べ 22,508 人、回答者数は 9,220 人となった。表には回答率は示されていないが、前述の 2 つ人数から単純に算出される回答率は、約 40.96%となる。本年 4 月 24 日における浦安キャンパス FD・SD 委員会で報告された、浦安キャンパスアンケート回答率推移表(2017 年度以降)に提示された数値と比較すると、少なくとも現行のアンケート実施形態に移行後では、今回の回答率は高い部類に入るといえる。

図 2：アンケート設問別回答平均値(部署別)



しかし、回答率を上昇させることが、学内のみならず、対外的にも求められている。これは、本学において、重要課題の一つといえるであろう。

東(2018)は、学生調査においては、回答率が 20%程度であっても、その大学の学生全体の学修行動の質的な特性を把握できることは多いが、そのような場合、少数の際立った特性が強調されやすく、安定的な結果を得るためには、やはり 60%程度の回答率が求められると指摘している。この点については、以下の論文に興味深い考察が展開されている。

＊東京一(2018)「学修行動調査における回収率とその結果の関係―回収率 3 割や 6 割の調査結果は何を伝えるか」『第 7 回大学情報・機関調査研究集会論文集』, pp. 20-25. (DOI: https://doi.org/10.50956/mjir.7.0_20)

(2) 平均学習時間について

図 2 は、授業外の学習平均時間(部署別)を示している。最大値でも 50 分に満たないという結果となった。学生は平均的に、1 セメスタあたり概ね 20 単位、またはそれ以上の履修申告をしており、各講義で課される課題や宿題に取り組むだけでも(まともなレベルを想定する限り)50 分(あるいはそれに満たない時間)では対応できないであろ

う。ゆえに、今回の結果は、実態を反映していないか、そうでなければ、浦安キャンパスでは講義外学習時間が50分に満たないような状態でも単位が認定されるような講義が行われていることを示していることになってしまう。いずれにせよ、容認できる結果とはいえない。

なお、結果表について、次のようなことがいえる。各部署において行われている講義は、それぞれ異なる性質を帯びた内容、性質、形態で実施されていることから、授業外の学習平均時間については、集計結果を部署別の棒グラフで発表することに積極的な意味はない。むしろ、回答の分布を把握することが重要であることから、少なくとも、散布図、算術平均、標準偏差、分散が示されるべきであると判断する。

(3) 設問別回答平均値について

表1の中段および図2は、アンケート設問別回答平均値(部署別)を表している。結果として示された項目の全数値が4を超えており、各項目の数値ごとの顕著な差が存在しないため、何の具体的な考察もできない状態である。結果を単純に解釈すれば、回答した講義の受講生は、浦安キャンパス内で開講されている講義を高く評価していることになるが、果たしてそのような理解が妥当であろうか。上述のように、回答率が50%を下回り、つまり、今回のアンケートが全受講生の半数にも満たないメンバーの意思表示しか反映しておらず、また、そもそも授業外の学習平均時間が著しく短い回答者が講義評価を行うのに適切な資質を有しているのかという問題を考慮する必要がある。したがって、今回のアンケート集計値に示された結果を、額面通りに解釈することは、必ずしも適切でないと思われる。

(4) 講義担当教員によるアンケート結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>について

講義アンケートの結果を検討する際は、学生が示した回答の数値のみならず、教員が提示した、集計結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>の内容を検討することも必要であろう。

上記の項目について、教員が抱える、学生の講義受講姿勢ないしは態度に対する切実な苦悩が報告されている。本報告書では、その一端をレポートするが、現場で指導上の困難と格闘している教員の苦労を窺い知ることができるものばかりである。

まず、受講生の私語についての指摘がある。注意しても私語を止めない者がおり、他の受講者からの苦情もあったことが報告されている。

出席記録についての問題も指摘されている。たとえば、講義中に respon によって出席記録を行っている場合、講義に参加していない学生は記録から排除されねばならない。しかし、教室外にいても、教室内にいる学生から何らかの手段で情報を入手して出席を記録してしまう学生が存在し、この件についても、正規の記録を行っている受講生から苦情があったということである。担当教員としては、この問題の対応に苦慮しているということである。respon による出席記録におけるシステム上の問題が、検討・改善される必要があると思われる。

課題答案に関わる問題もある。事前学習や事後学習の時間確保のため、課題の量を増やそうとしても、教員は受講生の答案作成過程の問題に直面する。すなわち、オンラインで課題を提出させると、次のような問題が発生する。複数の受講生からほぼ同じ内容の解答が提出されたり、質問の意図と異なる解答が寄せられたりするのである。前者は、受講生が各人の努力によって課題に取り組むことを回避し、仲間内で結託して互いに解答の担当を割り振って、不当に答案の共有を行っていることを表わしている。後者は設問の内容を正確に理解できないということを示しているのであろう。このような問題は、教員にとって、講義内容の拡充や合理的な成績評価における困難をもたらす要因となっている。

これと類似した問題として、課題に Chat GPT を使い、そこで得られた情報をそのまま貼り付けた答案を提出する学生に注意を行っても、改善が見られなかったという報告もあった。また、提出された課題が、友人のものをコピペしただけという学生がいるという指摘もあった。このような問題は、各講義内の注意喚起だけでは、改善の効果に限界があると思われる。

受講生から「授業中にスマホをみている学生や、スライドの写真を撮影している学生を注意すべき」との指摘があり、それを受けて教員は、教壇から把握できる範囲で注意を行うが、注意されても止めない学生が存在し、対応が困難であるという指摘もあった。他方で、寝ている学生、机の上に別のテキストを出している学生を注意したことがあるが、それに対して理不尽な反論をされて心外であったという報告もあった。受講態度が適切である学生にとって、態度が不適切な受講生の存在は、受講上の不快な要素であるが、教員としては対応に限界があるということである。

受講態度に問題のある受講生を、一人一人、個別に注意するということは、把握できる

範囲内では可能ではあるが、全てを把握することは不可能である。さらに、そのような注意を行うことは、講義の進行を遅らせる原因になり、各講義で解説できる講義項目が減少してしまう。それに加え、受講態度に問題のない学生にとっては、態度の悪い学生を教員が中止している時間は、単なる時間の無駄でしかない。この問題は、通常の講義時間外において、全学生に講義受講態度を適切にするよう指導する方策を、大学全体として検討する必要性を示していると思われる。

さらに、受講生の講義に向かう姿勢自体の問題も指摘されていた。「事前学修に時間をかけたくないという学生が、残念ながら一定数いる」、「最初から「できない、難しい」と決めてしまっている学生は、教員の話は聞いていない、教科書は持参しない、manaba での指示は確認しないという態度で、これでは伸びるものも伸びていかないと思わざるを得ない」、「講義内容に関心が全くない学生もあり、外部から来ていただいた講演者に失礼な態度の学生もいた」、「資料を自分で印刷しない、板書をメモしない学生がいる」という教員からの報告は、受講生の講義に対する基本的な姿勢が不適切であることを表わしている。

一方、基本的な指導上の問題も指摘されている。たとえば、「真面目な学生と不真面目な学生が混在した状態でのグループワークの実施が難しい」、「講義を開講した数年前と比較すると、現在は、明らかに授業に対する理解度の低下がみられ、好奇心にかける学生が多くなった」、「感情が表情に出ない学生が多く、問いかけへの反応が希薄であり、教員から話かけると対応するが、自分から積極的にコミュニケーションを図るという姿勢が見られない」などは、講義運営上での基本的な困難を表わしたものであるが、各講義内で個別に解決できる範囲を超えた問題である。このような項目は、大学全体として、中長期で検討すべき問題であろう。

③ アンケートの結果に基づく今後の課題と残存する問題

この報告書では、上記のように、2025 年度前学期における講義アンケートから得られた、さまざまな問題点の考察を行った。あらゆる問題が、このまま放置できず、改善を求められるものであった。他方で、今回はあえて言及しなかったが、アンケートの実施方法に関わる改善すべき点、質問項目にまつわる修正すべき問題もあろう。

それらは、FD・SD 委員会、および、他の委員会において、積極的な議論を経て改善させるべきものと判断する。特に、学生の講義受講態度にかかわる事項は、全学的な取り組みによって対応すべき問題であると考えられる。